

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)  | 1年間の目標   | 取組の内容  |  | 校内評価  |  | 学校関係者評価<br>(3月18日実施)   | 総合評価(3月27日実施)  |  |
|---|--------------|---|--|--|--|---|--|--|--|--|
|   |              |   |  | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況  | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題  | 改善方策等  |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | <p>①生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図る。</p> <p>②生徒の学習意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識の習得とそれらを活用する力を育む取組を充実させる。</p> <p>③総合的な学習の時間を充実させ、基礎学力の充実、キャリア支援を図る。</p> | <p>②生徒の能力・適性に応じた授業方法や教材の工夫改善に取り組むことより、授業力向上を図る。</p> <p>③9分総合の指導内容や指導方法を充実させ、指導の体系化を図る。また、2年次以降の10分ホームルームでの取組につなげる。</p> | <p>②教科担当者間の情報交換を活発化し、定期試験問題の共通化、効果的な指導法の開発に取り組む。</p> <p>③9分総合の内容を踏まえた2年次の10分ホームルームの計画立案と実践を行う。</p> | <p>②定期試験の共通化が図れたか。効果的な指導法の開発に取り組めたか。</p> <p>③9分総合の内容を踏まえた2年次の10分ホームルームの計画立案と実践を行えたか。</p> | <p>②問題の一部共通化を含めると、すべての教科で定期試験問題の共通化を導入することができた。また、国語科と家庭科で研究授業を実施した。</p> <p>③10分ホームルームにおいて漢字・英語・計算・時事についての取り組みを組織的に行った。</p> | <p>②定期試験問題の共通化を図る中で、担当者間の情報交換をさらに進める必要がある。また、多くの教員が研究授業を実施することで、より効果的な指導法を研究する。</p> <p>③10分ホームルームの生徒の取組意欲や状況の向上は部分的であるので、内容を教科の学習と結び付けたり、キャリア教育との関連を深めたりして、生徒が取り組みやすいよう改善する。</p> | <p>・日頃の授業が大事である。授業の質を高めるため、研究授業を制度化するとよいのではないかな。</p> <p>・勉学に苦手意識を持つ者も多く、継続的に取り組める課題学習は有意義だと思われる。</p>                                     | <p>①共通化した定期試験の結果から、指導方法の改善の情報を得ることができた。また、新規に二教科で研究授業を実施し、指導法等の意見交換を行った。</p> <p>②年間を通じて10分ホームルームで計画的にプリント学習等を行うことができたが、意欲的に取り組めない生徒も多く、基礎学力や学習意欲の向上は部分的であった。</p> | <p>①定期試験問題の共通化を契機として、担当者間の情報交換の機会を増やし、指導方法の改善に結びつける。また、研究授業を年間行事に位置づけ、より効果的な指導法を研究する。</p> <p>②10分ホームルームの内容を見直し、学習が苦手な生徒でも取り組めるように、教科の学習やキャリア教育に結びつけたものに改善する。</p> |
| 2 | 生徒指導・支援      | <p>①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる</p> <p>②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組を進める。</p>   | <p>①全職員で統一見解を持って生徒指導にあたり、生徒の困り感やニーズを把握・共有し、組織的に課題解決に当たる。</p>   | <p>①ケース会議を開催することにより生徒の状況を迅速に把握・共有したり、SCやSSWを有効活用することで、適切に事案に対応する。</p>                              | <p>①組織的な対応により、課題解決につながったか。</p>   | <p>①特別な支援を必要とする生徒のケース会議を実施し、全職員間で情報を共有して適切な対応を取ることができた。また、SCが授業観察等を行い、生徒への適切な対応を行うことができた。</p>                               | <p>①SSWとの連携において、連携が遅滞している中で、事案自体が新たな展開になってしまったことがあった。</p>  | <p>・さまざまな外国の文化に触れることができるのはよいことだ。これからも外国籍の生徒が多い定時制の特徴を活かし、多文化交流の機会を設け、生徒の国際感覚を育ててほしい。</p> <p>・定時制では外部機関との連携が大切である。SSWやSCを積極的に活用するとよい。</p> | <p>①SCへの新規の相談件数は減少したが、SC・SSWと連携し、ケース会議で情報を共有した上で事案に当たることができた。</p> <p>①日本語を母語としない生徒を支援するために日本語力測定を実施し、新たに交流会も5回実施した。</p>  | <p>①SSWの拠点校になるというメリットを活かし、SCやSSWといった外部機関との連携を密にして支援を充実させる。</p> <p>①今後の支援体制に日本語力測定の結果を活かすとともに、今後も継続的に交流会を実施し、外国につながる生徒の困り感解消に取り組む。</p>                            |
| 3 | 進路指導・支援      | <p>生徒一人ひとりの自己実現を目指した体系的なキャリア教育を推進する。</p>  | <p>生徒のキャリア意識を高める組織的な進路指導・教科指導により、進路決定、進級・卒業につながる教育活動を推進する。</p>   | <p>キャリア教育実践プログラム(1～2年目)やシチズンシップ教育(1～3年目)を充実させ、系統的なキャリア支援体制で取り組む。</p>                               | <p>進路決定、進級・卒業に対する生徒の意識を高めることができたか。</p>   | <p>すべての学年で進路ガイダンスを開催した。特に体験中心の進路説明会では生徒の意識を大きく向上させることができた。</p>  | <p>生徒のキャリア意識をより一層高めるためには、学習指導と生徒指導と進路指導を関連付けた取組を検討する必要がある。</p>   | <p>卒業後の進路をふまえて、継続的な指導をお願いしたい。</p>  | <p>・進路ガイダンスで、生徒に卒業後の進路を意識させることはできたが、4学年で進路を決定しようとする生徒が見受けられた。</p> <p>・実際の就職活動に取り組む若者サポートステーションやME-netと協力して系統的支援を推進した。一定程度生徒の進路決定に対する意</p>                        | <p>ME-netのキャリア支援事業については形式や方法の見直しを検討する。生徒の進路に対する意識を高めるため、四年間を見通したキャリア支援の実際を、学校として検討する。</p>  |

|   |              |   |  |  |  |   |   |  |  |   |
|---|--------------|---|--|--|--|---|---|--|--|---|
|   |              |   |  |  |  |   |   |  | 識向上を図ることができた。  |   |
| 4 | 地域等との協働      | 保護者や地域に信頼される学校を目標として、学校行事や地域貢献活動を通じた開かれた学校づくりを推進する。   | 保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動を展開したり、ホームページ等により広報活動を展開する。 | 地域貢献活動・ボランティア活動への生徒の参加を積極的に支援したり、ホームページ等を有効活用する。 | 地域貢献活動・ボランティア活動への参加意識を高めることができたか。学校ホームページ等の活用が促進し、情報公開を進めることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの問題点を整理し、新たな情報発信を目的として新規ホームページを完成させた。</li> <li>・地域貢献活動では、部活動部員、生徒会、有志の生徒など、昨年の参加人数より9名多い53名の生徒が参加した。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを今後さらに充実させるために、更新方法やその内容を検討する。</li> <li>・生徒の参加意識をさらに高めるため、地域貢献やボランティアの意義を学ぶ機会を、公民科や家庭科の授業を活用したり、キャリア教育に位置付けたりして、増やしていく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから学校で配付されたプリントが届かないことも多く、ホームページの活用も検討すべきではないか。</li> <li>・地域貢献活動では、生徒は積極的に行動していたようだ。地域との交流を今後も大事にしてほしい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページをリニューアルし、保護者や在校生、卒業生、中学生向けにわかりやすい情報を発信することができた。</li> <li>・地域貢献活動では昨年度より9名多い53名の生徒が参加した。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生や保護者に周知し、ホームページを充実させるために、更新を増やすとともに、その内容を充実させる。</li> <li>・学校と地域の良好な関係を築くため、学校の地域貢献活動の取り組みを地域に情報発信し、学校への理解へつなげる。</li> </ul>       |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒にとって安全・安心な学校づくりに取り組む</li> <li>②教職員が事故・不祥事防止に努める。</li> </ul> | ①生徒の交通安全、防災、食生活に関する意識を向上させる。                     | ①授業や各種研修会・講習会・訓練等の内容や方法の充実を図る。                   | ①生徒の交通安全、防災、食生活に関する意識を向上させることができたか。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の安全意識を高めるために、車両通学に関わる内規の改訂を進めた。</li> <li>①災害時を想定し、実際の避難経路や避難場所を利用した避難訓練を実施するとともに、新たに災害図上訓練を行った。</li> <li>①保健だよりを使った啓発や家庭科での調理実習の結果、食品衛生を正しく理解させ、安全で健康な食生活に対する意識を高めることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の安全意識を高めることを目的に、車両通学規定の改定を行った。交通事故防止に向けて啓発活動は行ったが、バイクによる事故が数件あった。</li> <li>①新たに災害図上訓練を行って、自宅までの徒歩経路や避難場所を生徒に確認させることはできたが、4学年が参加できなかった。防災備蓄庫の整理を行い、備品管理を徹底した。</li> <li>①夕食の利用が減少してきている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許を取得する生徒が多いので、交通安全に関する取り組みを積極的に進めてほしい。</li> <li>・防災教育や食育に関しては、今後も継続的な指導をお願いしたい。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>①バイクによる死亡事故を含め、バイクによる事故が数件あった。</li> <li>①災害図上訓練など新たな取組により、生徒の防災意識を高めることができた。</li> <li>①生徒の食に関する意識をより一層高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①車両通学規定を見直し、その運用における指導の徹底を図る。交通安全チェックシートを継続的に活用する。</li> <li>①全学年が参加できるように災害図上訓練等の実施時期を検討する。</li> <li>①生徒への食に関する指導の機会を増やす。</li> </ul> |